

今、何の病気が流行しているか！

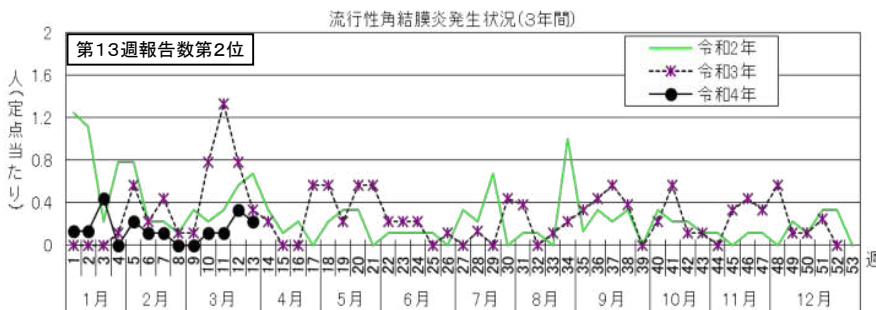
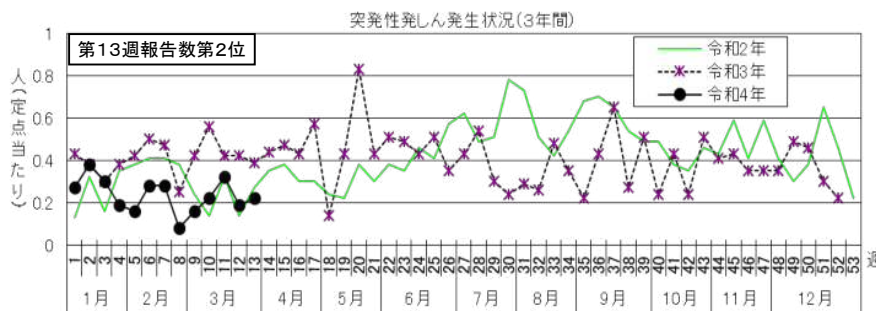
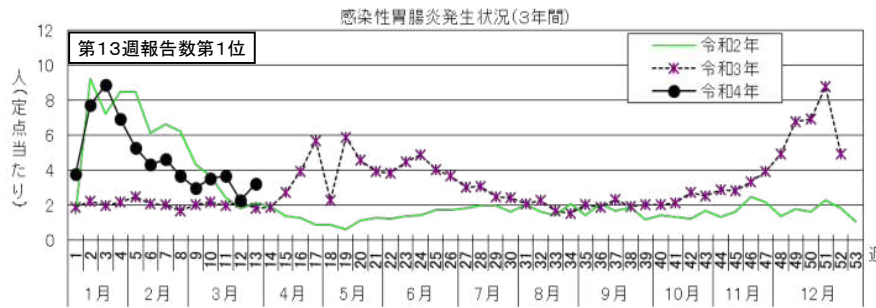
【感染症発生動向調査事業から】

令和4年3月28日（月）～令和4年4月3日（日）〔令和4年第13週〕の感染症発生状況

第13週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 突発性発しん・流行性角結膜炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.22人と前週（2.30人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.22人と前週（0.19人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.22人と前週（0.33人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



STOP



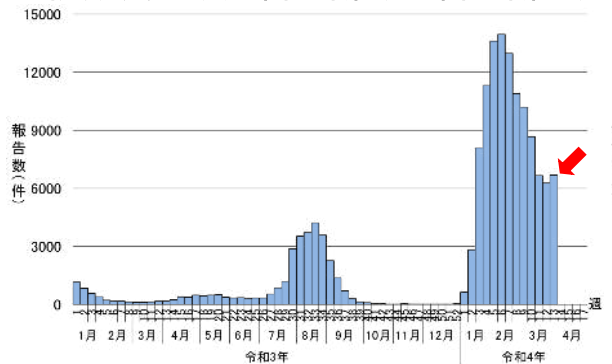
新型コロナウイルス感染症～報告数が再び増加～

川崎市における令和4年第13週（3月28日～4月3日）の新型コロナウイルス感染症の報告数は、6687件と7週間ぶりに増加に転じ、リバウンドの兆候がみられています。

また、直近3週間（3月14日～4月3日）の新規感染者のうち、20歳代までの割合は49.2%と約半数を占めており、若年層の増加が全体の報告数の増加に影響していると思われます。一方、60歳以上の方の割合は6.0%と非常に少なく、高齢者における新型コロナワクチンの高い追加接種率（89.04%）を反映していると考えられます。

感染の再拡大を防止するためには、日々の予防対策の徹底に加え、追加接種が重要となります。接種可能な方は早めの接種を御検討ください。

川崎市における新型コロナウイルス感染症 診断週別発生状況-令和3年第1週～令和4年第13週-



川崎市における新型コロナウイルス感染症 年齢階級別発生状況(令和4年第11週～第13週)

